

爆走坂東組日記

2006



おう。この号が出る頃には、もうSUGOのレースも終わってるな。オレも一体その結果がどうなってるのか楽しみなんだが、その前に今回はオレらが今年初めて表彰台に上ったセパンの話を書いてくれや。

セパンでの走行が始まったのは、いつものように金曜日からだ。たけど、何か今年は天気が変わった。この日も午後から雨が降った。ドライだった午前中も、セッティングは持ち込んだままの状態で行かせてたよ。セパンの走り始めは、路面が全然でこねえから。だから、この日やったことと言えば、鈴鹿1000kmに向けてのブレーキローターとパッドの焼き入れと、燃費の確認ぐらいだった。でも、この日のデータを元に、予選に向けてはスプリングはじめ、若干セッティングを変えたんだ。それが予選でのタイムにつながった。今回もタイヤはハイドを選んだんだけど、そこそこのタイムだったよ。でも、予選1回目のリザルトを見た時は、一瞬焦った。

たよ。ボクスター(編注:TOTAL BENEFIT GREENTEC B OXTER)がベストタイムを抹消されて、オレらは予選1回目でも3番手になったんだけど、その結果で10kg積まれるって、誤解してんだ。あとで気づいた時にはホッとしたけど。だから、スーパードライは狙いどおり! 4番手になって10kg積まなくて済んだし、表彰台を狙える位置につけられたし。ただし、予選の段階でRX7(編注:雨宮アスパラドリンクRX7)にはとてもじゃないけどついていけないって分かった。だから、目指すは2位だったな。

レースに向けて、今回特に気を遣ったのはドライバークーリング。作戦やセッティング以上に、そっちに手間をかけた。ファンの取り付け位置とか、どうやって熱風が出ないようにするかとか。新しいクールスーツも投入したし。とにかくセパンでは暑さとの戦いという面が大きいんだよ。セパンで色々試したお

Vol.3

灼熱の地・セパンで念願の表彰台を獲得!

かげで、鈴鹿1000kmに向けてやらなきゃいけないことも、また新たに見えてきたから、今はそれをやってる真つ最中だ。つつうわけで、レースに話を戻すが、決勝日はフリー走行中に、サーキットサファリがあつた。そのおかげで、マリーキングタイヤ以外のタイヤも試していいっていうことになったんだ。それはほかのチームにとっても同じだけど、オレらもそこで違うスペックのタイヤを試したわけ。後半、シゲの時に使えるかどうか。結局それを使っただけ、あの時間があった助かったよな。

決勝レースでは松田がスタターを務めたんだけど、ボルシェに引っかけた。向こうはストレートが速いから、一旦前に出られると厄介なんだよな。まあ、そんなワケで若干ポジションは落とされたんだけど、安定したペースで走り続けてくれたと思う。

その後、ピットに入ってきた時には、イチカバチが違うスペックのタイヤを装着した。今回はピット作業も素早かった。他チームが次々ミスするなか、3番手でコースに戻れた。でも、シゲは大変だったんだ。後半使ったタイヤに合ってたセッティングをしてないから、ク



ふたりのドライバーがそれぞれの役割を果たし、スタート前の目標「3位以内」を実現することができた。

ルマがピーキー&オーバーステアだったんだ。でも、こちとちやあ、シゲのコンスタントラップと追い上げに期待してた。その期待どおり、段々前には追いついて行っただけ、終盤になってバトルしてるGT500が、2番手のディレクシブ(編注:directiv ADVAN 320R)とオレらの間に挟まっちゃったりしたこともあって、脱水症状になつてたディレクシブの密山(祥吾)とRX7の井入(宏之)を最後まで抜けなかったんだ。ま、タラレバを言えば色々あるけど、結果としては3位表彰台ということ。後半戦に向けては良かった。まだタイトルの可能性はあるし、これからのレースを見てくれや。

GT300 Race Report ROUND 4

アクシデントも撥ね除けたふたりの好走が光り、今シーズン初の表彰台に

SUPER GT唯一の海外戦が、マレーシアはセパン国際サーキットにて開催された。

ウェッズスポーツレーシングチームwithバンドウは、1回目の予選で脇阪薫一が暫定4番手でスーパードライへの進出を決めるが、その後他車のペナルティにより3番手に繰り上がった。そのスーパードライではひとつ順位を下げて、4番手での決勝スタートとなった。

翌日の決勝は、松田晃司がスタートを担当するが、7周目の2号車とのサイド・バイ・サイドのバトルでわずかに接触し、左のミラーが内側を向

いてしまうアクシデントが発生。このため、GT500マシンを先行させる際に、GT300マシンにもパスされ順位を落とすが、徐々にリカバー、その後は安定したペースで走行を続けた。

後半を担当した脇阪は、早々にDHG ADVAN FORD GT、エンドレスアドバンCCI Zを攻略、3番手にまで浮上する。残り2周で2番手の27号車を攻め立てるが抜くまでにはいたらず3位でのゴールとなり、今季初となる表彰台を獲得した。

これによりシリーズポイントランキングで7位に浮上した。

GT300 Race Result ROUND 4

Rd.4 6月25日 曇り〜晴れ/ドライ セパンサーキット
5.542km×54周=299.268km 参加35台・出走35台・完走33台

順位	総合順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選/タイム
1	14	7	山野哲也/井入宏之	雨宮アスパラドリンクRX7	YH	50	2'11"347	3/2'10"222
2	15	27	密山祥吾/谷口信輝	directiv ADVAN 320R	YH	50	2'11"892	10/2'17"801
3	16	19	松田晃司/脇阪薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	50	2'11"488	4/2'10"398
4	17	2	高橋一徳/加藤寛規	I.M JIHAN CO.LTD・APPLE・Shiden	YH	50	2'11"429	1/2'08"692
5	18	55	光貞秀俊/池田大祐	DHG ADVAN FORD GT	YH	50	2'11"613	5/2'10"694
6	19	14	木下つひろ/稲尾孝輔	ハンコックエンドレスボルシェ	HK	50	2'12"521	7/2'11"119

・ベストラップ: No.7 雨宮アスパラドリンクRX7 2'11"347